

日本消防



- 令和6年度全国少年消防クラブ交流大会
- 全国消防殉職者遺族会理事会、正副会長会議、臨時理事会
- 第43回全国消防殉職者慰霊祭
- ありがとう！ 新日本消防会館完成記念大会

10
2024

- 絵 令和6年度全国少年消防クラブ交流大会を開催
全国消防殉職者遺族会理事会、全日本消防人共済会理事会、正副会長会議及び臨時理事会
第43回全国消防殉職者慰霊祭
ありがとう！ 新日本消防会館完成記念大会

巻頭言 「変革を求められる消防団」	(公財)宮崎県消防協会 会長 高橋 昌久	1
日消の動き 総合的な大雨対策の展開	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	3
第43回全国消防殉職者慰霊祭	(公財)日本消防協会	4
「全国消防殉職者遺族会理事会」を開催	全国消防殉職者遺族会	11
「ありがとう！ 新日本消防会館完成記念大会」の開催	(公財)日本消防協会	12
特別表彰「まとい」を受賞して 「地域における消防団の役割」	岡山県真庭市消防団 団長 藤元 敬	14
東西南北 (宮城県) 「自分たちの町は自分たちで守る」	柴田町消防団 団長 高橋 進一	16
東西南北 (福井県) 「未来につなげる消防団」	鯖江・丹生消防組合越前消防団 団長 駒野 孝一郎	18
東西南北 (三重県) 「生命と財産を守り抜ける 安全・安心のまち」を目指して	鈴鹿市消防団 団長 石田 久雄	20
シンフォニー (群馬県) 「自分にできることは何か？」	伊勢崎市消防団 境方面隊第13分団 団員 福島 祐香	22
消防団加入促進への取組み つながり&一人一人が広告塔	沖縄市消防団 団長 久高 清美	24
令和6年度全国少年消防クラブ交流大会を開催	(公財)日本消防協会	26
日本消防協会臨時理事会等を開催	(公財)日本消防協会	32
令和6年度(第40回)防火ポスターコンクール審査結果	(生協)全日本消防人共済会	34
消防育英会臨時理事会を開催	(公財)消防育英会	36
住宅用火災警報器の設置率等の調査結果(令和6年6月1日時点)	総務省消防庁	37
令和6年能登半島地震に伴い石川県輪島市で発生した大規模市街地火災に係る消防庁長官の火災原因調査の結果	消防研究センター	38
うちの名物団員	岩手県、宮城県、群馬県、福井県、福井県、宮崎県	42
消防団の広場(岩手県) 「繋いだ411本」	大船渡市消防団 分団長 窪田 将浩	44

編集後記

表紙写真説明

「三重県伊賀市」

上野天神祭は400年余りの歴史を有し、関西三大祭りの一つに数えられています。神幸祭(本祭り)では、神輿・鬼行列・楼車(だんじり)が行列を組み上野の街を巡行します。

伊賀地方の秋の風物詩となっているこの天神祭は、国の重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。

写真提供者：伊賀市

令和6年度全国少年消防クラブ交流大会を開催

令和6年9月14日(土)、15日(日) 【兵庫県神戸市】

(26頁～31頁に掲載)



**全国消防殉職者遺族会理事会、
全日本消防人共済会理事会、
正副会長会議及び臨時理事会**
令和6年10月2日(水) 【日本消防会館6階会議室】



第43回全国消防殉職者慰霊祭

令和6年10月3日(木) 【ニッショーホール】

(4頁～10頁に掲載)



ありがとう！ 新日本消防会館完成記念大会

令和6年10月3日(木) 【ニッショーホール】

(12頁～13頁に掲載)



巻頭言

「変革を求められる消防団」

(公財)宮崎県消防協会 会長 高橋 昌久



1 宮崎県の紹介

私たちが暮らす宮崎県は、26市町村で構成されており、県の東側には黒潮洗う太平洋の海岸線が約180km続き、西側には緑あふれる奥深い山々、清流の河川に恵まれた自然豊かな環境にあります。

また、県内各地に神話伝説が残り、天孫降臨の地と呼ばれるなど、豊かな歴史風土が息づいています。

このように、県全体が美しい自然と温暖な気候、神話などの歴史に恵まれており、また豊かな海の恵みと施設園芸や畜産などの多様な農畜産物も豊富で、みやざきブランドとして、地元のみならず全国各地に美味しくて安全な食べ物を届けています。

最近では、温暖な気候を活かし、スポーツランド宮崎として、野球、サッカー、ラグビー、駅伝、サーフィンなど各種スポーツの合宿の誘致も積極的に行われており、プロ野球のキャンプシーズンともなりますと県内外からの大勢のお客で賑わっているところです。

2 宮崎県消防協会

財団法人宮崎県消防協会は、昭和23年6月に創立され、平成25年4月1日に公益財団法人に移行し、今年で創立75年となります。

現在、当協会は名誉総裁に県知事を迎え、理事12名、監事3名及び評議員16名で構成されており、県内26の市町村消防団に13,600人余りの消防団員、及び常備消防に1,100人余りが在籍しています。

当協会の事業としては、宮崎県との共催により、宮崎県消防大会、隔年の宮崎県消防操法大会、女性・若手消防団員の加入促進を目

指した意見交換会、宮崎県女性消防団員活性化大会等を開催しており、また、宮崎県消防学校と連携して、消防団員の基礎教育や幹部教育を実施しているところです。

消防協会の独自事業としましても、宮崎県内を3ブロックに分け、各ブロックにおいて、正副消防団長の出席を頂いて、消防団充実強化に係る講演や会議を開催しています。



宮崎県女性消防団員活性化大会



令和5年 県中ブロック若手・団長研修会

3 最近の災害と対応状況

近年の災害は、地球温暖化によると思われる台風の大型化や線状降水帯に代表される大雨の影響により、大規模化する傾向にあります。一昔前は、宮崎県は台風銀座と呼ばれるほど、毎

年多くの台風が襲来していましたが、この傾向は全国的なものとなっており、近年は、全国各地でも大きな台風被害が発生しています。

宮崎県内においても、大雨や台風等のために、毎年のように山間部を中心にして、土砂崩れや道路の寸断などの被害が発生しているところ です。

3年前にも、県内で大規模な土砂崩れがありました が、この時も隣接する消防団が、市町村の枠を超えて協力し、常備消防や建設関連団体等とも連携しながら捜索活動などを実施しています。

このように、災害対応に際し消防団は力を発揮していますが、その基礎となっているのが、前述しました正副団長が参加するブロック会議等で培われた顔の見える関係だと思っています。平常時から県内10支部26市町村消防団が、3ブロックの地域に分かれ、それぞれ関係性を深めていることが、広域化、大規模化する災害に対して、迅速に、そして密に力を発揮している源だと考えているところ です。



台風倒木処理

4 消防団の現状と変革の必要性

今の消防団の現状を語るとき、真っ先に頭に浮かぶのは全国的な消防団員数の減少です。原因については、消防団員の職業の変化、地域防災に係る意識の変化、個人主義的な意識の広がり、人口減少に伴う消防団員のなり手不足など、様々な要因がありますが、この漸減的な傾向はまだまだ続いていきそうです。

宮崎県においても、この傾向は同様であり、それぞれの地域で減少の要因等に違いはあるものの、各市町村では消防団員確保対策に腐心しているところでもあります。

しかし、消防団員数の減少は、効率的、効果的な将来の消防団のあり方を我々が考えていくべき時期に來ていると、警鐘を鳴らしてくれていると捉えることもできます。

それぞれの消防団には連綿と受け継がれた地域の歴史や伝統があり、一朝一夕には理解も進みませんが、消防団の管轄地域の見直し、消防団車庫の統廃合、装備品の充実、消防団の部や分団の構成のあり方 の見直しなど、地元市町村の皆様の幸せのために、より良い方向の変革を目指していく必要があります。

5 消防団員確保に向けた宮崎県の取り組み

令和6年度から、宮崎県では、「消防団を支える総合対策事業」が行われています。

消防団員数の維持や活動への理解促進を行うなど、地域防災の中核となる消防団の将来に渡る機能維持を目的としています。

これまでの各種事業を発展的に継続して、これからは、宮崎県及び市町村の各行政機関との連携協力により、若手、女性消防団員の確保と消防団員の数を減らさない工夫を講じる事業を行っていくことが必要だと考えています。

また、今後の防災体制を考える時に、若い消防団員が継続していく環境に併せて、30年以上のキャリアを持つベテラン消防団員が更に円熟の活動をしてくれる環境の提供も今後の防災体制の根幹になると思っています。

6 結びに

ここ数年間は、新型コロナウイルス感染症により、消防団活動も大きく制限されてきましたが、このような中でも、災害は待ってくれません。

これからも、地元消防団が郷土愛護の精神に基づき、地域住民の皆様に頼られる防災の要として永く発展していけますように、全国の仲間と共に、宮崎県消防も時代の求めに応じて力強く歩んでいきたいと思っています。

本年度、災害のない平穏な日が続きますことを、また、全国消防団の益々のご発展をご祈念申し上げますとともに、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。結びといたします。

総合的な大雨対策の展開

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

地球環境全体の変化に伴うのでしょうか、近年の大雨状況は、少し以前とは様変わりですね。最初に痛感したのは、平成26年の広島市内の土石流災害でした。あの時は、さかのぼって、雨雲の流れを見直しました時、前日のあまり遅くない時間にこのような状況をよく見ていたら危険を感じることがあり得るかと思ひながら、全国の消防団の皆さんに、まことに出すぎたことかもしれませんが、書簡をさしあげたことがあります。

今年10月の熊本県での「ぼうさい こくたい」では、地震の体験を中心テーマとすることとされていますが、日本消防協会が行いますシンポジウムでは、令和2年の熊本水害をテーマにします。あの時の水害体験をいろいろな角度から議論して頂いて、これからの対策としてどのようなことを取り上げる必要があるかを、皆さんとご相談したいと思っています。

このように考えるに至りました背景は、最近の大雨災害の体験ですが、本当に近年の大雨の様子には大きな変化があります。ひと口に大雨といいましても、時間雨量などかつてとはケタ違いですし、これが深夜、上流の山間部で発生しましたら、何しろケタ違いの大雨が多いですから、翌朝あるいは午前中、下流部に洪水が発生することがあり得ます。

これらへの直接の対応は、消防以外の皆さんにお願いしなければならないこともいろいろあるでしょうが、地域の消防団、消防署は無関係でいることはできませんから、皆さんのご関心も高いでしょう。そして、そのご関心の対象は、相当巾広くならざるを得ないでしょう。そのようなことも考えながら、岩手県で開催した令和3年の「ぼうさい こくたい」では、日本消防協会は、「災害廃棄物の処理」をテーマとするシンポジウムを開催しました。これは、東日本大震災の際の津波による大量の災害廃棄物の発生を意識しながら、いろいろな災害発生地で必要だろうと思って実施しました。

今年は、これまでも、台風や線状降水帯などで大雨災害が発生しており、被災地ではそれぞれ大変なご苦労をなさっています。また、新年早々、能登半島地震、津波、火災が発生し、道路破壊、電気・上下水道の不通なども加わって大変なご苦労をなさいましたが、9月、能登半島を中心に、これまでの記録にない大量の大雨があり、大変な被害が発生しています。被災地の皆様に心からお見舞申しあげます。まず、何とか生活できる状況にしなければならないでしょうが、そのために具体的にどう対応していくか、消防側としてどのような対応が必要か、これらは、能登半島にとどまらない課題でしょう。新しい日本消防会館の活用などを含めて日消としても努力しなければならないと思います。

第43回全国消防殉職者慰霊祭

(公財)日本消防協会

10月3日(木)、先に完成した新しい日本消防会館のニッショーホールにおける初の公式行事として、第43回全国消防殉職者慰霊祭を執り行いました。

全国から多数のご遺族の方々にご参列いただき、約500名のご参列者のもとで挙行することができました。今回、新たに合祀された御霊は3柱で、これまでの合祀数は5,790柱となりました。



第43回全国消防殉職者慰霊祭

内閣総理大臣(代理・阪田内閣官房副長官補)、総務大臣(代理・池田消防庁長官)、防災担当大臣(代理・高橋政策統括官)をはじめとするご来賓並びにご遺族、全国消防関係者の多数の方々にご参列され、御霊の奉納、国歌斉唱、黙とうの後、(公財)日本消防協会 秋本会長の式辞に続いて、内閣総理大臣・総務大臣から追悼の言葉をいただき、続いてご遺族を代表して高知県の田村 利香様が追悼の言葉を述べられました。

その後、参列者による献花と江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)が行われ、秋本会長のあいさつで式典は終了しました。



会場



日本消防協会旗入場

式辞

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

これより第43回全国消防殉職者慰霊祭を執り行います。たまたま日程が厳しい日となりましたが、全国からご遺族をお迎えし、またご来賓の方々にもご参列を頂き、厳粛のうちに執り行うことができました。ありがとうございました。

殉職事故の防止には、関係者一同最大の努力をいたしておりますが、今年は新たに3柱の御霊を合祀することとなり、御霊は、合わせて5,790柱となりました。それぞれ、消防使命達成のため全力を尽くして殉職された方々であり、深く敬意を表し、心から感謝申しあげます。そして、安らかなご冥福をお祈り申しあげます。

今年の慰霊祭は、この程完成しました新しい日本消防会館の最初の公式行事として執り行わせて頂いたのですが、この新会館は、全国の消防関係の方々を始めとする多数の方々のご支援ご協力によって完成したものでありまして、私どもとしては、深く感謝申しあげており、消防関係の多数の方々のご参列のもと、この会館で執り行うことは、大きな感激であります。

今年は、新年早々能登半島で地震津波が発生し、その後も大雨災害が発生するなど、近年はこれまでと様相が異なる大規模な災害が世界各地で頻発しており、消防の役割は益々重く大きくなっていますが、事故なく無事に消防が使命を果たすことができるよう、この新しい会館も最大限活用しなければなりません。

そのような思いも込めながら、この新会館での初めての慰霊祭でございます。殉職事故防止、消防活動の一層の充実にひきつづき努力してまいります。

最後にそのことを重ねて申しあげながら御霊の安らかなご冥福、そしてご遺族の方々のお幸せを心からお祈り申しあげまして、式辞とさせていただきます。



入口



秋本会長による式辞

追悼のことば

内閣総理大臣 石破 茂（代理 内閣官房副長官補 阪田 渉）

第四十三回 全国消防殉職者慰霊祭に当たり、謹んで追悼のことばを申し上げます。

本年元日に発生した能登半島地震や大雨・台風の災害等でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

このたび新たに祀られた三名の消防業務従事者のご冥福をあらためてお祈りいたします。

皆様は、山岳救助活動、水難救助訓練や地震災害時の出動において、「地域住民の命を自分たちが守る」という強い使命感のもと、その責務を全うし、尊くも犠牲になりました。

皆様が身をもって示されたその強い使命感と勇氣に対し、衷心より敬意と感謝を表します。

愛するご家族を失われたご遺族の計り知れない悲しみ、無念さを思うと、哀惜の念に堪えません。ご遺族の皆様に対し、心からお悔やみを申し上げます。

近年、建物の大規模化や高層化が進む中、火災の様相が複雑になり、消防活動の困難性は高まっています。加えて、大雨や台風による被害が相次ぐとともに、今後も、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大規模地震の発生が懸念されています。このような中、先陣を切って火災や台風等の災害現場に駆けつけ、我が身の危険を顧みず、身を挺して活動する消防職員、消防団員に、国民は大きな信頼と期待を寄せています。

私たちは、これまでに祀られた五千七百九十柱の御霊の尊い犠牲を無にすることなく、そのご遺志にこたえるため、災害に強い、安全で安心な国づくりに全力を尽くしてまいります。

結びに、御霊の安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご平安を祈念し、追悼のことばといたします。



内閣総理大臣代理
阪田内閣官房副長官補による追悼のことば

追悼のことば

総務大臣 村上 誠一郎（代理 消防庁長官 池田 達雄）

第四十三回全国消防殉職者慰霊祭に当たり、謹んで追悼のことばを申し上げます。

火災や地震、台風、集中豪雨などの災害から国民の命を守る消防の活動は、多くの危険や困難と隣り合わせです。

本年は、能登半島地震や、五月からの大雨・台風による災害が発生したほか、先月二十日から大雨では能登地方に再び災害が生じるなど、日本各地で災害が相次いでおります。また、八月には、南海トラフ地震臨時情報が発表されることとなった、宮崎県日向灘を震源とする地震が発生しました。

災害等でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

このように近年の災害は激甚化、頻発化しており、消防の現場において活動される皆様のご尽力に、深く感謝申し上げます。

本日、新たに祀られる三柱の御霊は、地域住民の安全を守るという強い使命感の中で、尊くも犠牲になられた消防職員、消防団員であります。

志高い消防職員、消防団員を失ったことは、消防行政を所管する大臣として、痛恨の極みであり、ご遺族の皆様に対し、心からお悔やみを申し上げます。

尊い犠牲となりました先人のご遺志にこたえるためにも、今後の大規模災害に備え、地域の消防防災体制の充実強化に最善の努力を尽くしてまいります。

また、国民の生命を守るために、そして人命確保に努める消防職員、消防団員自身の身を守るために、活動時の安全対策など様々な施策を推進してまいることが私どもの責務と考えます。

ここに改めて、御霊の心安らかならんことをお祈り申し上げ、まだまだ深い悲しみの癒えないご遺族の皆様方のご平安を心より祈念申し上げます。



総務大臣代理 消防庁長官による追悼のことは

追悼のことは

遺族代表 高知県 田村 利香

第四十三回全国消防殉職者慰霊祭が執り行われるにあたり、全国の消防殉職者の遺族を代表して、追悼の言葉を申し上げます。

本日は、日本消防協会をはじめ、全国消防関係者の皆様のご厚情により、内閣総理大臣をはじめ多数の方のご臨席のもと、このような厳粛な慰霊祭が執り行われ、御霊の安らかなご冥福と、私たち遺族に対しても温かいお言葉を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

夫は、去る平成二十七年四月、公務中の事故により帰らぬ人となりました。余りにも突然の出来事で、私も子供たちも受け入れることができない日々が長く続きましたが、夫の所属していた中芸広域連合消防本部をはじめ、たくさんの方々から温かいご支援をいただき、おだやかさを取り戻すことができました。

そして、故人に対しましては、身に余る賛辞を賜りましたことに、併せてお礼を申し上げます。

今年も能登半島地震や、水害などが発生していますが、全国で多発している災害を知る度に、自分たちのようなことがあってはならないと強く感じております。

夫の消防業務に励む姿を決して忘れることはありませんが、地域を守るという崇高な消防の使命に殉じたことは、私たちの大きな誇りです。

私たちは、このことを心のより所とし、たくさんの方々のご支援に感謝しながら、悲しみを乗り越えてまいりますので、天国から温かく見守っててください。

終わりに、これまで殉職された多数の御霊の安らかなるご冥福をお祈りいたしますとともに、本日ご参列の皆様のご健勝と、全国の消防人の方々の安全を心からお祈り申し上げ、追悼の言葉とさせていただきます。



ご遺族代表 田村 利香様による追悼のことは



山口副会長による開式のことば



御霊の奉納



国歌斉唱



消防殉職者に対する黙とう



秋本会長による献花



内閣総理大臣代理
阪田内閣官房副長官補による献花



総務大臣代理 池田消防庁長官よる献花



防災大臣代理 高橋内閣府政策統括官よる献花



ご遺族代表による献花



参列者による献花



江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)



安満副会長による閉式のことば



都道府県別消防殉職者合祀数

都道府県名	殉職者(柱)
北海道	234(1)
青森県	69
岩手県	179
宮城県	174
秋田県	47
山形県	58
福島県	128
茨城県	81
栃木県	81
群馬県	93
埼玉県	82
千葉県	96
東京都	85
神奈川県	181
新潟県	130(1)
富山県	69

都道府県名	殉職者(柱)
石川県	50(1)
福井県	42
山梨県	86
長野県	158
岐阜県	78
静岡県	235
愛知県	262
三重県	45
滋賀県	46
京都府	44
大阪府	220
兵庫県	436
奈良県	40
和歌山県	95
鳥取県	18
島根県	19

都道府県名	殉職者(柱)
岡山県	75
広島県	825
山口県	101
徳島県	46
香川県	35
愛媛県	65
高知県	54
福岡県	228
佐賀県	31
長崎県	308
熊本県	87
大分県	83
宮崎県	66
鹿児島県	94
沖縄県	31
合計	5,790(3)

()は、新合祀数



「全国消防殉職者遺族会理事会」を開催

全国消防殉職者遺族会

令和6年10月2日(水)、日本消防会館6階のB会議室で「全国消防殉職者遺族会理事会」が開催されました。

1 議 事

議 案 令和5年度事業報告及び決算案について(監査報告)

2 報 告 事 項

- (1) 消防育英会令和5年度奨学生及び奨学金等の状況等
- (2) 消防育英会令和6年度奨学生の申請及び判定状況等
- (3) 消防育英会奨学生懇談会の実施結果

3 そ の 他

第43回全国消防殉職者慰霊祭について

議事については、異議なく承認されました。

理事会閉会后、14階の全国消防殉職者慰霊碑に参拝しました。



理事会の様子



慰霊碑前での記念撮影

「ありがとう！新日本消防会館完成記念大会」の開催

(公財)日本消防協会

新しい日本消防会館がこの程完成致しましたので、最初の公式行事として、10月3日(木)、新しいニッショーホールで午前中に全国消防殉職者慰霊祭を厳粛に執り行い、午後には「ありがとう！新日本消防会館完成記念大会」を開催致しました。

この大会の趣旨は、新会館建設にご協力いただいた消防関係の皆様へ新会館をご披露し、感謝の気持ちを捧げますとともに、皆さんと一緒に新会館の完成を喜んでいただき、日本消防の益々の発展のために新会館を活用する決意を明らかにするものです。

司会は日本でも有名な語り部であります平野啓子さんをお願いし、第1部の式典では、秋本敏文日本消防協会会長から、日本消防会館の建替えに至った経緯についてのご報告と、これまでお世話になりました関係者の皆様に対する感謝のことばを述べました。また、今後の新会館の活用についても、日本消防の益々の充実発展、消防を所管している全国市町村のご発展に貢献できるよう、感謝の気持ちを込めて努力していくことを、そして、これからの運営についても皆様方からのご協力をいただきますようお願いがありました。続いて、国を代表して池田達雄消防庁長官から、また、全国の消防団代表として、東京都消防協会会長・日本消防協会副会長として長年にわたり新日本消防会館の建設等に関わっていただきました沖山仁様から、そして、吉田義実全国消防長会会長からご祝辞をいただきました。

第2部からは祝賀会として、武蔵村山市消防団のラッパ隊のファンファーレで開始し、消防応援団のリーダーである水前寺清子さんにもご出演いただき「消防団三百六十五歩のマーチ」を歌唱いただき、続いて10年前の東京ドーム大会で栗田ケンジさんに歌っていただいた「消防団を讃える唄」を会場の皆さんと歌唱しました。更には、全国各地からご出場いただいた消防団の皆さんの、それぞれ地元の歌を元気に歌っていただきました。



秋本敏文日本消防協会会長



池田達雄消防庁長官



沖山仁元日本消防協会副会長



吉田義実全国消防長会会長



平野啓子さん



武蔵村山市消防団 ラップ隊



消防団三百六十五歩のマーチ

なお、ご出場いただきました消防団と歌っていただいた曲名は、写真のとおりです。



青森県弘前市消防団「団員なっぞ守ろう」



東京都板橋区志村消防団「志村消防団歌」



栃木県日光市今市消防団「人生杉並木」



兵庫県淡路市消防団「淡路市消防団団歌」



徳島県東みよし町消防団「消防激励甚句」



石川県穴水町消防団「地球へ」

また、消防応援団で色々な応援をしていただいているプロレスラーの蝶野正洋さんからご感想やご激励のお言葉をいただき、大いに盛り上がりました。

そして、締めくくりとして、語り部の平野啓子さんから津波災害から多くの人々の生命を守ったお話「稲むらの火」を語っていただきました。会場の皆さんは平野啓子さんのお話に聞き入っておられて、みんなで防災・減災に一層頑張ろうという機運になりました。



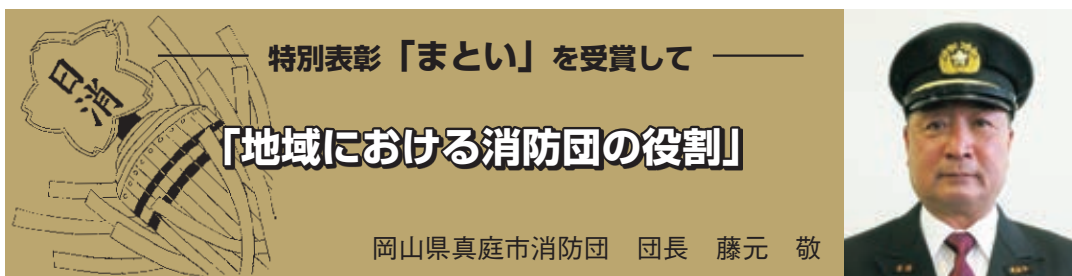
稲むらの火

第3部は、記念大会の最後の締めくくりとして「新会館、日本消防の一層の発展へ」という宣言を会場の皆さん全員で決議致しました。

その内容は、新しい日本消防会館の完成を祝うとともに、これを日本消防の総合的中核拠点として最大限活用し、国民の生命財産を守り抜く消防の使命達成のため、日本消防の一層の充実強化、益々の発展に全力を尽くすというものです。

消防関係の皆さんはもとより、一般の皆さんにも新会館に親しみを持っていただき、多くの方々のご意見をいただいて日本消防の一層の充実、全国市町村消防への貢献をめざしていきたいと考えています。

新会館建設へのご協力に対し、重ねてお礼を申し上げますとともに、これからの適切な会館運営につきましてもご協力をいただきますようお願い申し上げます。



1 はじめに

令和6年3月8日、ニッショーホールで開催されました第76回日本消防協会定例表彰式において、消防団の最高栄誉である特別表彰「まとい」を受賞いたしました。

全国2,100余りの消防団の中から、この栄誉ある表彰を受賞できたことは、真庭市消防団一同にとってこの上ない喜びであり、誇りとなりました。

この受賞につきましては、現所属団員はもとより、長年にわたり地域の安心・安全を守り続けてこられた諸先輩方の努力の積み重ねであるとともに、団員を支えてこられたご家族、地域のご理解とご協力があったのことに感謝申し上げます。



日消協定例表彰にて

2 真庭市の紹介

真庭市は、平成17年3月31日に当時の真庭郡勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村及び上房郡北房町の9町村が合併し誕生した、人口約4万1千人

の市です。岡山県北部で中国山地のほぼ中央に位置しており、北は鳥取県に接し、東西に約30km、南北に約50kmの広がりを見せています。総面積は約828平方km、岡山県の約11.6%を占める県下で最も大きな自治体で、気候は年間を通じて比較的穏やかで、台風や地震などによる災害も総じて少ない地域です。

3 真庭市消防団の紹介

わが真庭市消防団は、平成17年3月の合併、平成19年4月の名称変更により、現在の1団7方面隊28分団で構成される組織となりました。現在、団員数は約2,200名が所属しており、装備としましては、ポンプ自動車21台、ポンプ付積載車114台、小型動力ポンプ22台を配備し、市民の生命と財産を守り、安心・安全なまちづくりを担う一翼として、日夜活動しています。

4 真庭市消防団の活動

基本団員の活動としては、毎月の施設及び器具の点検、地域行事への積極的参加による防火防災の啓蒙、年末夜警など地域の防犯パトロールを実施しております。

また、消防技術の向上を目的とした操法訓練や、それぞれの地域で毎年非常呼集訓練を実施しており、団員の操作技術の向上、有事の際の迅速な行動につなげています。

全国の消防団が抱える問題として団員の減

少がありますが、真庭市においても発足以来減少が続いています。特に平日の昼間は即座に出動可能な団員が極端に少なくなる地域があり、これを補えるよう消火活動等に従事していただくため機能別消防団員制度を設けました。機能別消防団員には、消防団OBの方になっていただくことにより、消防団装備の扱いに長けている利点があり、非常に心強く感じております。

真庭市の人口が減少している中で、団員確保は非常に困難とは思いますが、日々の消防団活動や訓練をしている姿を見ていただくことで、入団者確保につながればと思います。

岡山県は『晴れの国おかやま』と言われ、晴れの日が多く災害の少ない地域ではありますが、岡山県全域に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨では、真庭市でも死傷者こそ無かったものの、市内各地で河川の氾濫、山水の宅地への流入、土砂崩れによる道路の通行止めが発生しました。



真庭市消防団としても各地域で団員が事前に準備を整えておりましたので、見回りによる警戒、土嚢積みや避難者誘導等の活動を行い、被害を最小限に食い止めることに貢献できたと思います。

5 おわりに

近年では異常気象が毎年のように発生し、被害に関しても想定を越えるものが多くなっていると感じています。

そのような状況で、やはり市民が一番の期待を寄せ、頼りとするのが身近な存在である我々消防団であると思います。「自分たちの地域は自分たちで守る」といった熱い思いを胸に日々消防団活動を行っておりますが、諸先輩方が守ってこられた安全で安心して暮らせる真庭市を次代へ引き継いでいくため、これからは頑張ってまいりたいと考えております。また、未来の真庭市を担っていく若い世代の方も、ぜひ消防団に入団いただき地域の安心・安全を守る一員として共に活動していただくことを望みます。

最後になりますが、今回の受賞にあたり、格別のご配慮を賜りました日本消防協会、岡山県消防協会をはじめ、消防関係機関の皆様すべてに深く感謝を申し上げますとともに、皆様のご活躍ご健勝を祈念して、受賞の挨拶とさせていただきます。





「自分たちの町は 自分たちで守る」



柴田町消防団 団長 高橋 進一

1 柴田町の紹介

柴田町は、東北唯一の政令都市「仙台市」から南へ約25kmに位置しています。町の総面積は54.03km²で人口はおよそ3万6千人です。

町の北西部は標高200m前後の山々に囲まれた盆地です。蔵王連峰の雪解け水を満々とたたえる白石川が町の中心部を流れ、町の東南部を流れる阿武隈川と合流して、太平洋に注いでいます。

柴田町では、産業構造の変化の中で、幹線交通網の整備に合わせてように食品

関連や精密機器関連などの大手企業が町に進出し、県内で有数の製造品出荷額を誇る“工業の町”でもあります。

観光資源も豊富で、春の桜まつりや秋の大菊花展は毎年多くの観光客で賑わいます。特に毎年4月に開催される「さくらまつり」の頃には、白石川の「一目千本桜」や船岡城址公園の桜を一目みよう、県内外はもとより海外からも多くの観光客が訪れ、毎年およそ20万人以上もの観光客で賑わいます。

2 柴田町消防団の紹介

柴田町消防団は6つの分団、31の班により組織され、条例定数300名に対し、令和6年4月1日時点で253名の団員がいます。主な消防団装備については小型動力ポンプ付き積載車28台を保有し、火災等の有事に備え活動しています。

3 柴田町消防団の活動

柴田町消防団の主な活動は、5月の消防演習をはじめ、出水期前には水防訓練、空気の乾燥してくる秋口には婦人防火クラブと合同の防火パレードなどを行っています。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、あらゆる訓練を中止せざるを得ない状況でしたが、





出初式



消防演習



台風19号写真1



台風19号写真2

昨年5月に5類引き下げとなつてからは、徐々にコロナ禍前と同様の訓練を再開しています。各分団、各班の活動としては地域の警戒活動はもとより、地区の防災訓練や地区行事への従事、消防水利の点検などを行っております。

令和元年の東日本台風では、総雨量365mmと近年で最も降雨量の多い大雨被害にあい多くの消防団員が地域の見回りや警戒活動に従事しました。また、自衛隊と協力し床上浸水の被害となった病院施設から入院患者を救助するなど組織の垣根を超えた活動となりました。

そうした経験をもとに、全団員に高視認性の雨衣の支給や、ライフジャケットの配布など水害対策に力を入れています。

4 終わりに

近年、少子高齢化や人口減少などにより消防団を取り巻く環境が大きく変化しています。当町においても、団員のなり手不足など、様々な問題に直面しており、今後消防団活動のさらなる理解促進を深めなければなりません。災害が多発する中、「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に、地域防災の要として安心安全なまちづくりを実現したいと思います。



「未来につなげる消防団」



鯖江・丹生消防組合越前消防団 団長 駒野 孝一郎

1 越前町の紹介

越前町は福井県嶺北地方の西端に位置する、面積152.97km²、人口約2万人の町で、東はホッケー競技が盛んで全国的にも強豪校である朝日中学校や丹生高校のある朝日地区、中央は織田信長公の織田家発祥の地であり、「越前二の宮 劔神社」が鎮座する織田地区、西は日本海に面し、全国的にも有名なブランド「越前がに」の一大水揚げ産地の越前地区、南は日本六古窯の一つの越前焼の産地宮崎地区、と特色のある4つの地区で構成された自然、文化の他、若者の力溢れる町です。

2 越前消防団の概要

越前消防団は平成17年に町村合併に伴い4地区の消防団も合併し誕生しました。団員定数は407人、分団数20分団、各分団に消防ポンプ自動車を配備し、団本部車両3台を含めた車両総数23台の消防体制で越前町内の安全・安心を見守っています。越前町長自らも長年消防団員として活動された実績を持ち、消防団活動に

対して非常に深い理解を得ています。また、来年度には機能別分団として広報活動に特化した「警防広報班」の設置を目指し更なる団員の募集活動も行っています。

3 越前消防団の活動

越前消防団の活動は、海岸、山間部、都市部と様々な現場活動はもちろん、住民参加型イベントや各種訓練を随時行い、自らの技術の錬磨以外にも、住民と身近に接することにより消防・防災を理解してもらえる貴重な組織として積極的に活動しております。また、1月に発生した能登半島地震では県内にも津波警報が発表され、住民のリーダーとして地域住民の避難誘導に従事しました。他にも特に近年は大雨、大雪による自然災害が多発し、水防活動や積雪による水利確保活動にも出動が多くなっています。

このように我々消防団がいち早く現場に駆け付け災害対応を行う姿は、住民に安心をもたらしている事と自負しております。



出初式の様子

4 今後の取り組み

人口減少による消防団員確保の問題は全国共通の課題であると感じております。越前消防団においても毎年定数割れが続いており消防団員の確保に苦慮しているのが現状です。これを打破する為にも今後は消防団の改革に取り組まなくてはならないと思います。まずは前述のとおり「警防広報班」の創設です。町内には女性消防隊の組織が11隊ありますが、隊員さんにも団員として活動していただきたく現在協議中です。また分団の統合による強化や、現団員の意見を積極的に取り入れて団員の負担軽減ややりがいを感じてもらえるように行事、内容の見直しを行っています。この改革をアピールし地域住民をはじめ町内の企業で勤務する方や町内に住む学生を対象に広く募集していき

たいと思います。その他、全国の消防団の皆様の活動内容を参考にさせていただきながら消防団改革を進めていきたいと思っています。

5 終わりに

近年の地震災害の頻発、異常気象による大雨、大雪、高温による災害など、私の入団時とは活動の内容も大きく様変わりしました。住民の皆様から求められるニーズも多くなり、また、期待も大きくなってきたように感じます。

今後も社会の変化、災害の変化に柔軟に対応できるよう、団長として率先して消防団の改革を進め、消防団の技術、意識の向上を図り、未来につなげていけるよう全国の消防団員として活躍する皆様と共に活動していきたいと思っています。



今年の水防活動



消防団によるふれあいイベントの様様



「生命と財産を守り抜ける 安全・安心のまち」を 目指して



鈴鹿市消防団 団長 石田 久雄

1 鈴鹿市の紹介

鈴鹿市は、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈と恵まれた自然環境の中にあり、伝統ある歴史と文化に育まれ、生き生きとした生活ができるまちです。昭和17年12月、軍都として2町12カ村が合併し、人口約5万2千人から出発した本市は、自動車産業など数多くの企業を誘致し、伊勢湾岸地域有数の内陸工業都市として発展してきました。また、自動車レースの最高峰F1が開催されるモータースポーツのまちとしても世界的に知られています。

2 鈴鹿市消防団の紹介

鈴鹿市消防団は、1団本部24分団で構成されており、令和6年6月1日時点の団員数は、条例定数505名（うち50名は機能別団員）に対し、基本団員443名と機能別団員45名の488名で構成され、高い充足率を維持しています。

平成9年に15名で結団したH1まわり分団（女性団員）は、応急手当講習指導のほか、着ぐるみを使った人形劇や高齢者に仮装する防災劇、子供向けの防火紙芝居など小さな子供からお年寄りまで各年代

に合った防火・防災啓発に取り組んでいます。さらに令和5年度には、第25回全国女性消防操法大会に出場し、活動の幅は広がっています。

現在、消防団活動は多種多様化してきており、女性の視点を取り入れた避難所運営など、女性団員の必要性は非常に高まっている中で、地域のニーズに合った活動を女性消防団員自身が楽しみながら誇りを持って防火・防災啓発活動に取り組んでいます。

平成30年には、大規模災害時にオートバイでの活動に特化した大規模災害対応団員の活動を開始しました。団員の構成は、ロードレース、モトクロス、トライアルのレースで世界的に活躍する現役トップライダーも名を連ね、国際レーシングコース鈴鹿サーキットがある「モータースポーツのまち鈴鹿」ならではのものとなっています。

活動内容は、災害現場での情報収集だけでなく、地域住民への情報伝達、避難誘導、被災者の搜索、初期消火、簡易な救助、応急処置及び被災地への物資の搬入など活動は多岐に渡ります。また、出



女性団員



大規模災害対応団員

初式などの消防イベントに参加し、市民の前でトップライダーの並外れたバイク操縦技術を披露することで、多くの市民が集まり、消防団活動の広報に大いに貢献しています。

令和元年7月には、女性の大規模災害対応団員も加わったことから、今後は、オートバイを利用した新たな活動を追求しながら、消防団全体においても更なる発展を目指しています。

3 鈴鹿市消防団の取組み

全国各地で災害が激甚化・頻発化しており、消防団は地域防災力の中核として重要な役割を果たしている一方で、近年、消防団員の減少(特に若年層の入団者数減少)及び高齢化が全国的な課題となっている中、鈴鹿市消防団では、令和6年4月1日に条例定数475名から505名に増員し、市内大学の在大学生を対象とした機能別団員学生団員の発足により大学生25名が入団しました。

鈴鹿市消防団では、学生団員を発足するために市内大学生に対して説明会や一日消防団員体験を行い、若い世代に消防防災意識の向上を図り、消防団の役割や魅力を伝えました。その中でも学生が参加した自治会等の訓練では、地域の方々との間で会話が生まれ、訓練に活気が溢れました。

また、学校側との打ち合わせや説明を繰り返すことにより連絡・連携体制を構築することができ、消防団と学校側との共助体制を構築することができました。

さらに学生に対する防災研修会では、外部講師による震災体験などの講話や防災について楽しく学ぶことができる防災ゲームを盛り込み、学生にとって多様な体験ができるように工夫することにより、将来を見据えた地域防災力の確保として、大規模災害発生時の被災者救助の知識や技術を持った住民層を広げることに繋がりました。

そのほか、学生に向けた入団促進物品(リーフレット)の作成と配布を行い、消防出初式での数千人規模の来場者に対し、若年層への入団促進をはじめとする消防団の

広報を行ったことに加え、成人式では若者に的を絞った取組みを行い、市内の大学生に対しても配布することで、多くの若者に鈴鹿市消防団の魅力を伝えました。

今回の機能別団員学生団員の発足は、様々な工夫した取組みと平素より培ってきた鈴鹿市消防団と各関係機関との連携・協力体制が実を結んだものであり、大変嬉しく誇りに感じております。

機能別団員として学生の任用をスタートさせたことにより、将来にわたる地域防災の担い手を確保し、育成することが可能になったほか、今後は、学生の持つ探求心、発想力、行動力が、消防団を活性化させ、地域防災力の強化につながるものと確信しています。



学生団員

4 おわりに

鈴鹿市消防団は、463名の消防団員に加え、この度、入団いただきました学生団員25名とともに、さらなる地域の皆様の安全・安心につながる取組みを進めてまいりますので、皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



シンフォニー（群馬県） 「自分にできることは何か？」

伊勢崎市消防団 境方面隊第13分団 団員 福島 祐香

1 はじめに

群馬県伊勢崎市は関東平野の北西、群馬県の南東に位置し、北方正面には赤城山がそびえ、西方には榛名山をはじめ、上信越連峰が望める自然景観が豊かな地形です。令和7年1月1日には市町村合併から20周年という節目を迎えます。また、伊勢崎市にある田島弥平旧宅は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとして世界遺産に登録されており、こちらは本年10周年を迎えました。名産物としては、やきまんじゅう、神社コロッケ、いせさきもんじゃ、おっきりこみなど、群馬県特有の小麦料理が様々あります。最近では沢山の外国人が暮らしている街としても有名で、市内には異国情緒あふれるレストランも多数あり、国際色豊かで珍しい料理を食べることができます。



2 伊勢崎市消防団について

伊勢崎市消防団の体制は、第1方面隊（10個分団）、第2方面隊（11個分団）、赤堀方面隊（6個分団）、東方面隊（4個分団）、境方面隊（14個分団）の計45個分団で構成され、定数735人のうち実員667人（令和6年4月1日現在）となっています。

私の所属する分団は境方面隊で、伊勢崎市の中でも南東部に位置し埼玉県との県境にあります。利根川、広瀬川、早川と河川に恵まれています。その反面、水害が危惧される地区でもあります。

3 消防団へ入団した理由について

私は入団するまで、消防団の存在を知らずに生きてきました。様々な巡り合わせがあり、地元である伊勢崎市境に戻ってくることになり、しばらくして生活も落ち着き、地域の活動に何かしら参加したいと思っていた矢先、回覧板に「消防団員募集！大学生や女性も活躍しています！」といった、かわいらしい消防車のイラストがあるチラシが入ってきました。はじめは正直、どんな活動をしているのか、まったくわからない状況でしたが、誰かの役に立てそうな予感があり、勢いで当時の分団長へ電話をしていました。今思えば、3月末の年度末に突如連絡をしてしまい、ご迷惑をお掛けしたと思います。その中で、定員15名のところ、運良く1枠空いていたことで何とか入団できたこともあり、幸運も重なり何かに導かれたように感じました。実際は当



時の分団長をはじめ様々な方々の協力の元で、入団することができたことに対し、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

なお、実際のところ境方面隊では、初の女性団員であることから、その当時は物議を醸す存在であったかもしれません。

4 消防団での活動について

消防団へ入団するにあたり、まずは自分なりの目標を考えました。1年目の目標としては「消防団が何をする組織なのかを知るため、できるだけ行事に参加する」でした。そのため、分団長へ相談し団の予定を早めに出してもらうことで、仕事を調整することができ様々な行事へ参加することができました。活動内容としては、男性団員に混ざり火災現場への出動・消防署主催の機関講習・水防訓練（土のう作りや積み土のう訓練）・プールでの救助ボート訓練・地域住民との自主防災組織訓練（応急担架作成と運搬）・消火器使用指導・お祭りの交通整理など、全体的に身体を使うものが多いという印象でした。そんな中、実際の火災現場では何もできずにいる自分に対し、「私は必要なのか？」と自問自答することが多々ありました。しかし、群馬県消防学校で開催された「消防団員特別教育第4期女性団員科」や「第23回消防団幹部候補中央特別研修 女性団員の部」へ参加させていただく機会があり、群馬県内や全国の女性消防団員との交流を通じ、私以外にも沢山の女性消防団員の方々がいて活動されていることを知るこ



とができました。その時の率直な感想は「皆さん元気でパワフルだなあ〜」というものでした。そのほか、自分がコミュ障であることを再認識しました。群馬県内の研修で出会えた同じ伊勢崎市の女性消防団員の方々や、幹部候補中央研修で同じグループの方々とは、今でも連絡を取り仲良くさせていただいています。各研修で学んだことを生かさなければと、火災出動の際には助手席に乗り、恥ずかしさを捨て拡声器を使用し、一般車両へ注意喚起と協力への感謝を伝え現場へ向かうことができました。また、今年度は6年振りに地区のポンプ車操法大会が開催され、指揮者を経験させていただきました。地区大会では第2位に入り、上位の支部大会へ出場することとなりました。なお、支部大会は残念ながら悪天候により中止となりましたが、非常に良い経験をさせていただきました。

5 おわりに「自分にできることは何か？」について

まだ「自分にできることは何か？」は模索中です。しかし、入団し様々な経験をさせていただき、少しずつですができるようになってきました。今年度も引き続き、様々な行事に参加するなかで、応急手当指導員の資格を取得することができました。コロナ禍により各団員の応急手当講習の期限も切れているため、受講を促すとともに自身で講習会が開催できるよう努めていきたいと考えています。



つながり&一人一人が広告塔

沖縄市消防団 団長 久高 清美

1 消防団の認知度について

消防団の認知度がかなり低い沖縄県。歴史的な面や地形的に一級河川や山も少なく、自然災害が本土に比べ少ないこと、団員数が他府県の十分の一という状況もありますが、団員の私たちにも責任があるのでは？と改善策を模索しています。沖縄市消防団では、自分たちの存在を知ってもらえるよう活動時にのぼり（消防団訓練中・消防団募集中など）を掲げ存在をアピールしています。

ある日、夜間訓練を行っているとき、一台の車が停車し、若い男性が近寄って来ました。「自分は教師で学校ではこどもたちに消防団のことを教えています。のぼりを見て立ち寄りました。沖縄にも消防団があることを初めて知りました」と、興味深そうに話しかけてきました。消防団を知らない要因の一つに、消防団の活動を目にする機会が無い、身近に消防団が存在することを知らない人が多いようです。活動服姿の私たちを消防職員だと思っていたようです。「消防団訓練中！」ののぼりが地元の消防団を知るきっかけに一役立ちました。

2 マスメディアの活用について

消防団員の加入促進を進める上でまず、消防団の存在自体を広報する必要がありました。「井の中の蛙大海を知らず」となっていないか？消防団の組織内の活動で満足し、伝えることをしているのか？自分自身にも問いかけてみました。二十余年も在籍していながら仲間を増やすことがこれまでできなかった要因は何か？一つ一つその問題点を解消することから始めることにしました。団長就任後、団員の増強を図るため、地元のFMラジオの防災コーナーへ月1回出演し、消防団についての説明、活動の様子、イベントの告知、団員募集などを行っています。ラジオを聞いて、入団した団員が2名います。県内新聞社2社と市広報へ積極的に取材依頼を行い、消防団の活動の様子を掲載してもらっています。これまでに、自主防災組織の訓練で避難誘導の様子や、地域の祭りで消防団員による防災啓発寸劇、手作りの大型防災紙芝居を披露する様子などが掲載されました。



消防団員加入促進向上事業「お笑い芸人とのトーク」で団員紹介



外国人への救命講習 機能別団員

3 活動の可視化について

春・秋の防火週間の防火広報活動は、これまで夜間に行われていました。しかし、基地と隣接している事情から防音工事が施されており、特に夜ともなれば窓を閉めると、広報のアナウンスの音が全く聞こえない地域もあります。広報活動の在り方も住民の目に訴え、効果的に行う必要がありました。尚且つ団員の負担にもならない工夫を考え、団員が参加しやすい土・日の昼間の活動に変えてみました。すると、沿道の住民から消防車の団員に「頑張って!」とエールがあり、散歩中の保育園児たちから歓声があがり手を振ってくれます。活動に対する評価も上がり、団員のやる気もアップし活動への参加率も向上しています。

4 団員一人一人が広告塔

団員が楽しくやりがいを持つことで、自分の周りから仲間に入れようと「一緒に消防団やろう!」と若い団員からの声掛けが多くなりました。仕事を持ちながらの活動ですので楽しくない所にわざわざ入る人はいません。団員が楽しいと感じ仲間を探してくれています。昨年11月に、市内の自動車修理工場から入団した2名が僅か1ヵ月の活動から仲間を増やそうと、12月には2名誘ってきました。4月には更に1名が入団決定。同じ会社から5名が入団することとなりました。また、若い消防職員の協力もあり、同世代の趣味(バスケット)の仲間に声を掛け、5名が入団しました。

5 今後の取り組みについて

昨年から訓練の最後に実施しているコミュニケーションタイム(20分程度)は団員同士の交流を図り、お互いを理解し合う良い機会となり、訓練への参加意欲が向上しています。それが加入促進にもつながっていると感じています。

令和6年3月時点で、定員に達したものの、仕事の都合などで退団予定者もあり、継続して加入促進を図りたいと思います。そのためには、つながりを大切に、参加しやすい環境づくりや団員の育成強化を図ることでやりがいのある活動、適材適所の人材配置で一人一人が達成感を持って参加できるよう幹部が一丸となって取り組んで参ります。



座学 勉強会



訓練後のコミュニケーションタイム

令和6年度全国少年消防クラブ交流大会を開催

(公財)日本消防協会

今年で7回目となる「令和6年度全国少年消防クラブ交流大会」を、総務省消防庁主催のもと、令和6年9月14日(土)～9月15日(日)の2日間、兵庫県神戸市において、(公財)日本消防協会、(一財)日本防火・防災協会の他、兵庫県、神戸市、兵庫県消防協会共催で開催しました。

当日は北海道から大分県までの少年消防クラブ、総勢60クラブが参加して行われました。

この交流会は、将来の地域防災の担い手(消防団等)の育成を図るため、消防の実践的な活動を取り入れた訓練等を通じて、全国の少年消防クラブと交流を深める目的で開催しました。



北海道から大分県まで60クラブが参加

1日目

交流会は神戸市「神戸ポートピアホテル」で開催され、消防庁国民保護・防災部地域防災室福西室長より開会の挨拶後、共催挨拶では兵庫県齋藤知事、神戸市久元市長より少年消防クラブに対する期待等について挨拶をいただきました。

その後、オリエンテーションや各参加クラブから趣向を凝らしたクラブ活動紹介を行いました。

食事中には、兵庫県及び神戸市のPR動画視聴や、神戸市消防音楽隊による演奏を鑑賞し、クラブ員の交流を行いました。



福西地域防災室長



兵庫県齋藤知事



神戸市久元市長



クラブ員自己紹介の様子



クラブ員自己紹介の様子



神戸市消防音楽隊による演奏の鑑賞

2日目

会場となった「グリーンアリーナ神戸」で、クラブ対抗による合同訓練を行いました。

開会式では、消防庁国民保護・防災部地域防災室福西室長、少年消防クラブ活性化推進会議秋本委員長より開会のことをいただきました。

続いて、埼玉県三郷市少年消防クラブの代表者が「一人ひとりが日頃の訓練の成果を十分に発揮し、正々堂々競技に挑戦することを誓います。」と元気に選手宣誓を行いました。



開会式の様子



福西地域防災室長



秋本委員長



三郷市少年消防クラブによる選手宣誓

合同訓練のクラブ対抗リレーでは、消防で使う筒先をバトン代わりに、5名の走者が1区間40mの往復リレー形式で、障害壁、ホースボウリング、水消火器、トンネル、ホース延長の障害物をクリアし、ゴールラインを通過するまでのタイムを競いました。

クラブ対抗障害物競争は、5名が同時にスタートし、直線50mのコースに設置してある平均台やハードル等の障害をクリアしながらホースを延長し、最後に全員がロープ結索を行い、ゴールラインを通過するまでのタイムを競いました。



障害壁



水消火器



クラブ対抗障害物競争



ロープ結索

【合同訓練結果】

- 1位 三郷市少年消防クラブ(埼玉県三郷市)
- 2位 志津川中学校少年防災クラブ(宮城県南三陸町)
- 3位 吉川松伏少年消防クラブ(埼玉県吉川市)
- 4位 府中町少年少女消防クラブ(広島県府中町)
- 5位 鷹匠中学校防災ジュニア(兵庫県神戸市)



表彰式



1 位 三郷市少年消防クラブ



2 位 志津川中学校少年防災クラブ



3 位 吉川松伏少年消防クラブ



4 位 府中町少年少女消防クラブ



5 位 鷹匠中学校防災ジュニア

参加少年消防クラブ

No.	都道府県	市町村区	クラブ名	No.	都道府県	市町村区	クラブ名
1	北海道	札幌市	ていねつほく 手稲鉄北少年消防クラブ	31	愛知県	豊田市	とよたしりつすえの 豊田市立寿恵野小学校少年消防クラブ
2		札幌市	おかだま 丘珠はまなす少年消防クラブ	32		尾張旭市	おわりあさひし 尾張旭市少年少女消防団
3		札幌市	ふしこほんしょう 伏古本町ひまわり少年消防クラブ	33	京都府	城陽市	じょうよう 城陽少年消防クラブ
4		小樽市	かつらおか 桂岡少年（少女）消防クラブ	34	大阪府	河南町	かなんちょう 河南町ファイアジュニア
5	宮城県	南三陸町	しづがわ 志津川中学校少年防災クラブ	35	兵庫県	神戸市	Bosai Jr. 消防団ひょうご
6	福島県	田村市	おおごえ 大越中学校少年消防クラブ	36		神戸市	ポーアイ防災ジュニアチーム
7	埼玉県	三郷市	みさとし 三郷市少年消防クラブ	37		神戸市	うたしきやま 歌敷山中学校防災ジュニアチーム
8		吉川市	よしかわまつぶし 吉川松伏少年消防クラブ	38		神戸市	ひよどり ^{だい} 台防災ジュニアチーム
9	千葉県	浦安市	うらやすし 浦安市少年消防団	39		神戸市	たかしよう 鷹匠中学校防災ジュニア
10	東京都	中央区	にはんぼし 日本橋消防少年団	40		神戸市	うおざき 魚崎ジュニア防災チーム
11		文京区	ほんごう 本郷消防少年団	41		神戸市	ながたれんごう 長田連合防災ジュニア
12		台東区	にはんづつみ 日本堤消防少年団	42		神戸市	ひがしかわさき 東川崎防災ジュニアチーム
13		墨田区	むこうじま 向島消防少年団	43		神戸市	ちゅうおう 中央ジュニア消防チーム
14		目黒区	めぐろ 目黒消防少年団	44		神戸市	ほんじよう 本庄中学校ジュニア防災チーム
15		大田区	かまた 蒲田消防少年団	45		太子町	たいし たつの・太子少年消防クラブ
16		大田区	やぐち 矢口消防少年団	46	鳥取県	米子市	よなごし 米子市消防団少年消防クラブ
17		世田谷区	たまがわ 玉川消防少年団	47	岡山県	岡山市	じょうとうだい 城東台少年消防クラブ
18		中野区	のがた 野方消防少年団	48	広島県	広島市	あおさきちく 青崎地区少年消防クラブ
19		豊島区	としま 豊島消防少年団	49		広島市	ひじやま 比治山少年少女消防クラブ
20		荒川区	あらかわ 荒川消防少年団	50		三原市	みはらしりつめなたびがし 三原市立沼田東小学校少年消防クラブ
21		葛飾区	ほんでん 本田消防少年団	51	広島県	三原市	みはらし 三原市Brave Fire Club
22		江戸川区	こいわ 小岩消防少年団	52		府中町	ふちゅうちよう 府中町少年少女消防クラブ
23		江戸川区	かさい 葛西消防少年団	53	徳島県	美馬市	みまし 美馬市少年少女消防クラブ
24		八王子市	はちおうじ 八王子消防少年団	54	高知県	南国市	なんこくし 南国市少年消防クラブ
25		立川市	たちかわ 立川消防少年団	55		香南市	あかおちよう 赤岡町少年防災クラブ
26		清瀬市	きよせ 清瀬消防少年団	56		中土佐町	なかとさ 中土佐ジュニア消防団
27		あきる野市	あきがわ 秋川消防少年団	57	福岡県	北九州市	くすばし少年消防クラブ
28	神奈川県	横浜市	RiskWatch Yokohama Fire Team	58	熊本県	八代市	ひかり児童館少年消防クラブ
29		大和市	やまとし 大和市少年消防団	59		人吉市	にしぜ 西瀬少年消防クラブ
30		湯河原町	ゆがわらまち 湯河原町少年少女消防クラブ	60	大分県	日出町	ひじまち 日出町少年消防クラブ

日本消防協会臨時理事会等を開催

(公財)日本消防協会

令和6年10月2日(水)、新しい日本消防会館において日本消防協会正副会長会議及び日本消防協会臨時理事会を開催しました。

正副会長会議では、引き続いて開催される臨時理事会の議事等について説明が行われたほか、秋本敏文会長から、年内に予定している主要イベント等についての説明がありました。



日本消防協会正副会長会議の様子

正副会長会議の後に、日本消防協会臨時理事会を開催しました。

秋本敏文会長のあいさつ後議事に入り、議案として評議員会の招集について審議され、原案通り決議されました。また報告事項として、年内に予定している主要イベントに関し、状況報告が行われました。諸般の報告では、今後の全国大会等の開催計画など諸般の報告も行われ、臨時理事会は終了しました。

臨時理事会に提出された議案は、下記のとおりです。

【議決事項】

第1号議案 評議員会の招集について

【報告事項】

- (1) 「ありがとう！ 新日本消防会館完成記念大会」について
- (2) 「地域総参加の防災力向上大会」について
- (3) 「自治体消防制度75周年記念大会」について
- (4) 「全国消防職団員の集い」について

【諸般の報告】

- (1) 今後の全国大会等の開催計画について
- (2) 第30回全国消防操法大会・激励交流会について(宮城県)
- (3) 第31回全国消防操法大会の開催場所について
- (4) 防災推進国民大会2024について(熊本県)
- (5) 地域防災力充実強化大会の開催について(熊本市)



日本消防協会 秋本敏文会長挨拶の様子



臨時理事会の様子

令和6年度(第40回) 防火ポスターコンクール審査結果

(生協)全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、小学校4年生以上から中学生を対象とした防火ポスターコンクールを毎年行っています。

今年度も各都道府県の支部から選出された作品の中から、第1次審査及び第2次審査を厳正に実施した結果、最優秀賞作品に埼玉県熊谷市立大里中学校1年 浅見 美友さんの作品が選ばれました。

最優秀賞作品については、令和6年度全国統一防火標語「**守りたい 未来があるから 火の用心**」を掲載し、令和6年度の秋の全国火災予防運動にあわせて防火ポスターとして全国に配布いたします。

たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞



埼玉県熊谷市立大里中学校1年 浅見 美友さん

最優秀賞 (1名)			
埼玉県	熊谷市立大里中学校	1年	浅見美友さん
優秀賞 (2名)			
鹿児島県	鹿児島市立伊敷小学校	4年	中野心々音さん
福島県	南相馬市立鹿島小学校	5年	寺島遥希さん
佳作 (8名)			
茨城県	銚田市立大洋中学校	1年	菅谷和子さん
和歌山県	有田川町立石垣小学校	6年	高垣芽生さん
広島県	福山市立鳳中学校	2年	大平彩乃さん
福岡県	豊前市立宇島小学校	4年	桐川陽向さん
長野県	長野市立東条小学校	5年	高橋彦之真さん
長野県	山ノ内町立山ノ内西小学校	6年	堀米咲菜さん
埼玉県	吉川市立美南小学校	4年	西岡杏さん
福島県	福島市立吾妻中学校	2年	内藤らんさん

優秀賞



鹿児島県 鹿児島市立伊敷小学校
4年 中野心々音さん



福島県 南相馬市立鹿島小学校
5年 寺島遥希さん

消防育英会臨時理事会を開催

(公財)消防育英会

令和6年9月24日(火)、日本消防会館6階B会議室で「令和6年度消防育英会臨時理事会」が開催されました。

1 議 事

議 案 令和7年度(公財)JKA補助金の要望について

2 報告事項

- (1) 消防育英会評議員及び理事・監事の選任
- (2) 消防育英会奨学生懇談会の実施結果
- (3) 令和6年度消防育英会奨学生の申請及び判定状況等

議事については、異議なく承認されました。



住宅用火災警報器の設置率等の調査結果 (令和6年6月1日時点)

総務省消防庁

1 調査の概要

消防庁では、消防法により設置が義務付けられている住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置率等について、令和6年6月1日時点の調査結果をとりまとめました。

設置率 84.5%

(令和5年6月1日時点84.3%)

条例適合率 66.2%

(令和5年6月1日時点67.2%)

※ 「設置率」とは、市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分のうち、一箇所以上設置されている世帯（自動火災報知設備等の設置により住警器の設置が免除される世帯を含む。）の全世帯に占める割合です。
※ 「条例適合率」とは、市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分全てに住警器が設置されている世帯（同上）の全世帯に占める割合です。

2 都道府県別に見る住警器の設置率等

都道府県別に見ると、福井県の設置率（95.1%）と条例適合率（85.9%）が最も高く、一方で、沖縄県の設置率（61.9%）と高知県の条例適合率（41.5%）が最も低くなっています。

3 傾向と今後の取組み

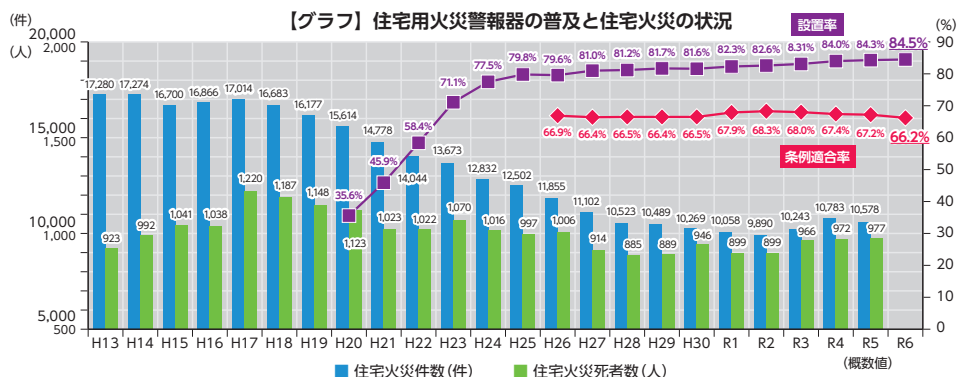
我が国における住宅火災件数及び住宅火災による死者数は、新築住宅に対する住警器の設置義務化がスタートした平成18年以降、おおむね減少傾向にあり、住警器の普及促進を始めとした住宅防火対策に一定の効果が現れていると考えられます（グラフ参照）。

住警器の設置状況については、全国平均値で約8割、条例適合率が7割弱となっている一方、設置率や条例適合率が非常に低い地域も見られます。住宅火災による被害が拡大しやすい高齢者世帯をはじめとした未設置世帯等に住警器が設置されるよう、消防庁においても、消防機関に限らず、関係行政機関、関係団体、関係業界等、あらゆる団体と連携した取組みを進めているところです。

また、住警器の維持管理にあたっては、平成23年6月にすべての住宅に住警器の設置が義務化され、令和3年6月に設置から10年を経過したことから、今後、電池切れや電子部品の劣化等による故障が増えるものと予測されます。本調査とあわせて実施した住警器の維持管理状況調査では、作動確認を行ったもののうちの3.0%の世帯で住警器の電池切れや故障が確認されました。火災時に住警器が適切に作動するよう定期的な点検を通じて、本体の交換等を推進していく必要があります。

このような状況を踏まえ、令和2年度に改正された「住宅用火災警報器設置・維持管理対策基本方針」においては、従来からの設置に対する取組みに加え、住警器の維持管理（点検・交換）に関する広報及び支援体制等の強化が盛り込まれています。

なお、本体交換の際には、各世帯の住宅の構造や世帯構成に応じて、火災にいち早く気づくことができる連動型住警器、ガス漏れや一酸化炭素の発生など火災以外の異常を感知して警報する機能を併せ持つ住警器、音や光を発する補助警報装置を併設した住警器など、付加的な機能も併せ持つ機器などへの交換を推奨しています。



令和6年能登半島地震に伴い石川県輪島市で発生した大規模市街地火災に係る消防庁長官の火災原因調査の結果

消防研究センター

令和6年(2024年)1月1日16時10分頃、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、石川県輪島市門前町走出及び志賀町香能で震度7、輪島市河井町及び輪島市鳳至(ふげし)町などでも震度6強の揺れが観測されました。この地震の後、輪島市河井町及び輪島市鳳至町の震度観測点からほど近い輪島市河井町地内の建物から火災が発生し、延焼拡大の結果、約49,000㎡に及ぶ広範囲な市街地において約240棟の建物が焼失するという大規模な火災となりました(写真)。消防庁では、この火災について、消防法第35条の3の2の規定に基づき消防庁長官の火災原因の調査を実施し、5月28日に「令和6年能登半島地震に伴い石川県輪島市で発生した大規模市街地火災に係る消防庁長官の火災原因調査報告書」(以下「報告書」といいます)をとりまとめ、同日に開催された「第3回輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」に報告しました。以下、報告書の概要を記します。報告書は、消防研究センターのホームページからダウンロード可能です(https://nrifd.fdma.go.jp/research/saigai_chousa_shien/notohantou_jishin/index.html)。



写真 令和6年能登半島地震に伴い石川県輪島市で発生した大規模市街地火災の焼失範囲(三重県防災航空隊撮影)

1 火災の概要及び火元建物の状況

- (1) 火災発生日時等
 - ・発生時刻：令和6年1月1日時分不明
 - ・覚知時刻：令和6年1月1日17時23分
 - ・鎮圧時刻：令和6年1月2日7時30分
 - ・鎮火時刻：令和6年1月6日17時10分
- (2) 火元建物：石川県輪島市河井町地内
- (3) 被害状況
 - ・焼失面積：約49,000㎡
 - ・焼損棟数：243棟※
 - ・焼損床面積：29,399㎡※
 - ・死者数：16名※

※ 焼損棟数、焼損床面積及び死傷者数は、報告書には「管轄消防本部(奥能登広域圏事務組合消防本部)において継続調査中」と記載されていますが、ここにはその後の管轄消防本部による調査結果を記しています。なお、管轄消防本部による調査結果では、負傷者数はなしとなっています。
- (4) 火元建物の状況
 - ・消防隊の活動状況、近隣住民の目撃情報等から火元と思われる建物を判定。
 - ・輪島市河井町の建物(木造(一部鉄骨)2階建て、外壁トタン張り)で、築約50年。
 - ・1月1日16時10分頃に発生した地震による地震動(河井町で震度6強)で倒壊。

2 出火原因

出火原因は、以下のことから「地震の影響により電気に起因した火災が発生した可能性は考えられるが、具体的な発火源、出火に至る経過及び着火物の特定には至らない。」との結論になりました。

- ① 火元建物全体が焼失し、建物内に残存している物品も全体的に著しく焼損して大半が原形を留めていないことから、詳細な出火箇所は特定できないが、目撃情報により建物1階東側から出火したと考えられる。

- ② 火災は地震発生から1時間以上経過してから
覚知されており、仮に地震発生時に使用中で
あった火気器具等から出火した場合、火災覚
知時刻との説明が難しく、居住者の供述も踏
まえると、火気器具等から出火した可能性は
低い。また、放火及びたばこの可能性も低い。
- ③ 電力会社により16時10分34秒に火元建物がある地域への送電が停止されたが、同地域は送電停止の前から強震動に見舞われていたこと、地震発生から50分余り経過した時点で火元建物がある地域へ試送電(送配電設備の異常の有無を確認するため、試しに電力を瞬間的に送ること)が行われたこと及び火元建物内の電気配線に溶けた痕跡が認められたことを踏まえると、地震の影響により電気に起因した火災が発生した可能性は考えられる。なお、火元建物内において、電気製品は焼損及び破損が著しいこと、電気配線は細かく断線していて出火前の配置状況等が判然とせず、溶けた痕跡も複数箇所に認められることを踏まえると、具体的にそれらがどのように出火に関与したかは判断できない。

3 延焼拡大の状況

延焼拡大の状況について、次のことがわかりました。

- ① 焼失範囲内南西に位置する建物から出火した火災により、覚知から約14時間後の1月2日7時30分の鎮圧までの間に、輪島市河井町内の約49,000㎡の範囲、243棟(管轄消防本部に

よる調査結果)の建物が焼失した。焼け止まり線の周長は約1,260mであった(図1)。今回の火災による焼失面積を過去の大規模延焼火災(表)と比較すると、平常時の火災である昭和9年の函館大火(4,163,900㎡)や昭和51年の酒田大火(225,000㎡)よりは小さいが、糸魚川火災(約40,000㎡)よりも広い範囲が焼失した。地震後の火災では、平成7年兵庫県南部地震の後の延焼火災のうち焼失面積の大きい方から3番目と4番目の間にあたり、平成23年東北地方太平洋沖地震の延焼火災では4番目と5番目の間にあたる。



図1 輪島市大規模火災の焼け止まり線と焼け止まり要因

表 過去の大規模延焼火災の焼失面積

火 災 名				焼失面積	出 典
平常時	昭和9年 (1934)	函館大火		4,163,900	函館市：函館大火、 https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/
平常時	昭和51年 (1976)	酒田大火		225,000	自治省消防庁消防研究所：酒田大火の延焼状況等に関する調査報告書
地震	平成7年 (1995)	兵庫県南部地震*	水笠西公園周辺 (須磨・長田区)	97,300	自治省消防庁消防研究所：兵庫県南部地震における神戸市内の市街地火災調査報告書(速報)
			高橋病院周辺 (長田区)	61,700	
			会下山南 (兵庫区)	51,500	
			菅原市場周辺 (長田区)	45,000	
			神戸デパート南 (長田区)	35,900	
			新長田駅南 (長田区)	35,000	
			西代市場周辺 (須磨・長田区)	34,000	
地震 津波	平成23年 (2011)	東北地方太平洋沖地震*	陸中山田駅・役場前 (山田町)	170,000	消防庁消防研究センター：平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の被害及び消防活動に関する調査報告書(第1報)
			大槌町小付近 (大槌町)	116,000	
			市香地区 (気仙沼市)	110,000	
			門脇小付近 (石巻市)	58,000	
			関上地区平田橋 (名取市)	42,000	
			田老地区 (宮古市)	40,000	
平常時	平成28年 (2016)	糸魚川市大規模火災	内の脇地区 (気仙沼市)	38,000	消防研究センター：平成28(2016)年糸魚川市大規模火災調査報告書
				40,000	

*兵庫県南部地震及び東北地方太平洋沖地震後に発生した延焼火災のうち、焼失面積の大きい地区を抜粋し焼失面積の大きい順に掲載した。

② 1月1日17時52分、20時13分、21時23分、さらに2日1時8分頃の映像に映った火災の煙の傾きから、これらの時間帯は火災現場付近では弱い南南西の風が吹いていたと推測された。

③ 写真・映像から復元した延焼動態図から、焼失範囲の南西において、火災初期には南北方向に同程度の速さで延焼し、その後東方向に延焼したことがわかった(図2)。風上(南)方向の延焼速度及び風横(東)方向の延焼速度は、それぞれ35m/h程度、20m/h程度であった。風上方向の延焼速度は阪神・淡路大震災の約1.5倍、糸魚川市大規模火災の0.7~1.1倍、風横方向の延焼速度は阪神・淡路大震災の0.8~1.8倍、糸魚川市大規模火災の半分程度であった。焼失範囲内北部の街区については、2日1時9分には延焼し尽くしていることが空撮映像からわかるのみで、延焼動態を復元できる写真・映像は入手できておらず、詳細な分析は困難である。



図2 写真・映像から復元した輪島市大規模火災の延焼動態

④ 焼失範囲内北部の街区である「朝市通り」北側への燃え移りは、飛び火(火の粉による出火)によるものであることが、消火活動にあたった消防職員による目撃情報からわかった。市街地火災延焼シミュレーションからは、この街区では飛び火から概ね東西方向に延焼拡大したと推定される(図3)。



図3 市街地火災延焼シミュレーションから推定された北側街区の延焼動態

⑤ 焼失範囲の北西側の焼け止まり線は河川との境界、北東側の焼け止まり線は主に空地との境界であった。南東側と南西側の焼け止まりには消火活動が寄与したと考えられ、そう考えられる焼け止まり線の周長は、全体の約43%にあたる約540mであった(図1)。

⑥ 市街地火災延焼シミュレーションの結果から、仮に消火活動が行われず放任火災となった場合、焼失面積は実際の火災の2倍以上の約110,000㎡となった可能性がある(図4)。

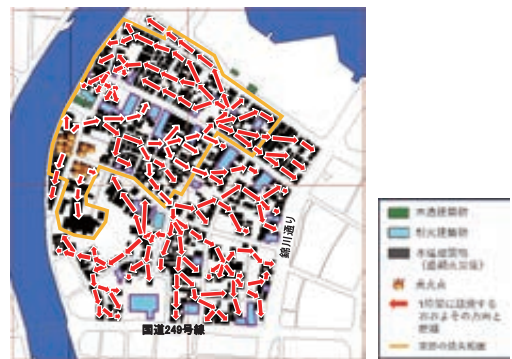


図4 放任火災の場合の市街地火災延焼シミュレーション結果

4 延焼拡大の要因

初期段階で消火することができなかったことに加え、延焼拡大を促進したと考えられる要因、またはその可能性があるものとして次のものがあげられます。

- ① 消防水利が不足したこと。
 - ・地震後の断水により消火栓が使用不可能となったこと。
 - ・焼失範囲内及びその周辺地域の防火水槽のなかに、建物倒壊により使用できなかったか使用を断念されたものが4基あったこと(図5)。
 - ・河原田川の水位の低下及び大津波警報等の発表等により、河川及び海からの取水が困難な状況になったこと。



- 幅員4m未満の道路・路地
(現地での道路幅員実測と焼損範囲外は Google Streetview から判断)
- 幅員4m以上の道路に接道していないと思われる建物
- 防火水槽 ✕ 使用不可の防火水槽
- 半径約30mの円
(放水距離を想定)
- /// 川底が現れた場所
(範囲は要精査)

図5 輪島市大規模火災の焼失範囲及びその周辺の市街地の状況と防火水槽

- ② 焼失範囲及びその周辺市街地の防火性が低い状況であったと考えられること。
 - ・焼失前の焼失範囲内を写した写真(Google ストリートビュー)に、道路に面した建物には外壁面が板張りの古い木造住宅が多く見られたこと。
 - ・焼失範囲内には幅員4m未満の道路や路地が多くあり、このために建て替えが進まず、街区内に古い木造住宅が多くあった可能性が考えられること(図5)。
 - ・古い木造住宅の隣棟間隔には50cm前後の狭いものが多く見られたこと。
- ③ 地震により建物が倒壊して隣棟間隔が減少すると、燃え移りやすくなるが、焼失を免れた近隣街区には倒壊した建物が見られたことから、焼失範囲内にも倒壊した建物があり、これが延焼拡大を促進させた可能性が考えられること。
- ④ 飛び火または飛び火と疑われるものがあったこと。

なお、焼失範囲ではガス配管による都市ガスの供給はなく、多くの建物にLPガスボンベが設置されていたが、火災時の木造建物1棟の総発熱量及び発熱速度に対するLPガスボンベ(充填ガス重量50kg)1本のそれらの比は、それぞれ1%程度、2~3%と見積もることができる。また、焼失範囲内の建物には灯油ホームタンクが設置されているものがあったが、同じく火災時の木造建物1棟の総発熱量及び発熱速度に対する灯油ホームタンク(容量150L)1台に対するそれらの比は、それぞれ2%程度、2~3%と見積もることができる。これらのことから、LPガスボンベ及び灯油ホームタンクが延焼拡大を促進した影響は多少はあったものの、延焼拡大の主たる要因ではなかったものと考えられる。

うちの

名物団員



岩手県



大船渡市消防団 副本部長(階級：分団長)

菊地 正洋

菊地副本部長は平成7年に入団して以来、義勇と愛郷の精神を胸に地域の安全安心のために尽力されています。

活動は消防団だけに留まらず、「長安寺太鼓保存会」に所属し、その華麗なるパチさばきで見る人を魅了し、時にはコミカルな「火男」に扮しステージを盛り上げるなど、郷土芸能の伝承に取り組んでいます。今後も、愛する郷土のために活躍することを期待します。

宮城県

柴田町消防団 女性班 班長

平間 奈緒美

柴田町消防団からは、平間奈緒美班長を紹介します。

平間班長は普段、柴田町議会議員として活動しています。平成31年に柴田町消防団に入団し、柴田町消防団初となる女性班の設立に貢献しました。現在も女性班班長として、女性団員の確保や、救命講習による救急救護の技術習得など広い視野で活動を行っております。現在女性団員は7名に増え、警戒活動や消防署が行う該当イベントの支援なども行い消防活動に尽力しています。



群馬県

大泉町消防団

川島 勲・柊人・楓・桂

群馬県邑楽郡大泉町からは、川島親子を紹介します。川島親子は父の勲さん、長男の柊人さん、次男の楓さん、三男の桂さんの4名で消防団に在籍し活動をしています。令和5年度の秋季点検では親子4名でポンプ操法を披露しました。勲さんは在籍29年のベテラン団員で町ポンプ操法競技大会では個人賞常連。三兄弟は父親の功績を超えるべく日々訓練に励んでいます。





鯖江消防団からは、鳥羽分団の橋本分団長を紹介します。

橋本分団長は平成17年9月に入団し、平成31年4月から鳥羽分団分団長として団員をまとめ、地域住民の安全・安心を守っています。

橋本分団長は地域に根ざして活動する消防団が、災害発生直後などの初動時にドローンを活用すれば、いち早く被害確認や情報収集等を行うことが可能となると考え、ドローン黎明期に操縦の資格を取得されました。

これからも来る様々な災害に備えて、ドローン操縦の技術、知識を活かし地域のためにますますのご活躍を期待しています。

鯖江消防団からは、河和田分団の富田分団長を紹介します。

富田分団長は平成24年4月に入団し、令和5年4月から河和田分団分団長として団員をまとめ地域住民の安全・安心を守っています。

普段は1500年以上の歴史がある福井県鯖江市河和田地区で作られている越前漆器の若き担い手で、漆器の表面に絵柄を刻み込み、その彫り跡に金銀箔や粉、顔料などを漆で定着させて仕上げる沈金の装飾技法を確かな技術と情熱で守り続けています。

富田分団長は親しみやすい人柄で消防団員のみならず、地域の方々からも信頼される存在です。



延岡市消防団から女性消防隊(愛称：とよ姫隊)入団11年目の中野侑子団員を紹介します。

中野団員は福井県出身で京都の大学院を卒業後、2014年、結婚を機に延岡市へ。

延岡で友達や知り合いが欲しいなと思っていた矢先、回覧板でとよ姫隊の入団募集チラシを見て「これだ!」と思い即入団。入団直後から、ご自身の得意分野を生かし、パンフレットやチラシの作成、また会議等でとよ姫隊の活動を発表したりと、消防団の大きな力となっています。また、鍼灸師として働きながら、認知症地域支援推進員としても活動されています。「自分たちの知識や技術の向上が地域の為に繋がる」との強い思いを持っている中野団員の今後の活躍を期待しております。



大船渡市消防団
分団長

窪田 将浩



岩手県大船渡市は、市街が三陸復興国立公園のほぼ中央に位置し、リアス式海岸を有する人口約32,000人の水産業が盛んな地域です。

大船渡市消防団は、1本部12分団、団員数626名で構成され、私が所属する第11分団は三陸町越喜来地区を管轄しています。

5月26日、当分団管内で林野火災が発生し、日曜日の早朝からサイレンが市内に鳴り響きました。

火災現場は、集落から約8キロも離れた首崎灯台付近の山林。

現場までの道のりは、消防車両のすれ違いが困難なほど狭隘であり、現場付近は無水利地帯。これでは現場到着しても有効な消火活動ができない。分団長としてどう活動方針を打ち出せばいいのかと不安を抱えながらの出動となりました。

現場到着し、指揮本部より8キロ離れた水利からホースを延長しているとの無線を傍受したとき、「何本のホースと何台のポンプが必

要なのか？こんな長距離送水が本当に可能なのか？」など様々な考えが頭の中を過りました。しかし、全12分団、消防署隊が一致団結し、水利側から延長されたホースと火点側から逆延長されたホースが結合され、通水していくその様は、ただただ感嘆するばかりであり、大船渡市消防団の底力を改めて感じたところでありました。

通水できたことにより、ジェットシューターによる効果的な消火活動を展開することができ、火災発生から9日目の6月4日に鎮火となりました。

今回の火災に出動した消防団車両31台、使用ホース411本。

大船渡市消防団のプライドと、仲間との信頼で繋いだこの超長距離中継送水は、私の消防団人生において一番の記憶となることは間違いありません。



消火活動



林道を延長されたホースと消火隊



超長距離延長